
遥かな時の彼方から ~桜~ 2

藤菜 桐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遙かな時の彼方から　く桜く　2

【Nコード】

N2193G

【作者名】

藤菜　桐

【あらすじ】

昨日出会った少女のことが頭から離れない勝。少女はもう現れないのか、それともまた会えるのか…。

第2章 く夢か、現か

翌日、オレは昨日のことが気になって仕方なかった。

朝、登校時にあの桜の巨木の幹にチラリと視線を流したが、そこにあの少女の姿はなかった。

やはり夢か幻でも見ていたのだろうか。

そう思って忘れようとはするものの、やはり、そう簡単に忘れられるものではなかった。

何しろ少女の印象が強すぎて、そして忘れようとするほど、逆に考え込んでしまうようになってしまった。

「しょう」

どうしたんだよ元気ないぞ

どっか悪いのかあ???

「うわっ!?!」

気付くと目の前には友人がいて、こちらを覗き込んでいた。

「びっくりした〜……」

「なんだよ心配してきてやってんのに。

ホントに大丈夫か??

ぼけ〜…っとしてさ〜」

そんなにぼけっとしていたのか……。

普段からそんなに元気いっばいなつもりはないが、周りから見れ

ば、いつもよりは元気がなく見えたのだろうか。

「おい」

「……大丈夫だよ。」

別になんでもないし……」

「ふうん……ならいいけど」

そう言つと、そいつは去っていった。

「しょう、なんだつて??」

「うーん。なんでもないつてさ」

向こうでそんなやり取りが聞こえてきたが、オレはあまり気にすることもなく、また考え込んだ。

1日中、教室にいる間そんなことが続いた。

そして放課後。帰路につく。オレはまた、当然のようにあの桜の前を通る。

もう無駄な期待はやめた方がいいとは思いついながらも、ついそちらが気になる。

諦めきれずそちらに顔を向けた。

すると……

「あ！しょうくん！！」

やわらかな、澄みきったような、そしてどこか凜とした風の、その声。

昨日の少女が、そこには居た。
昨日と同じ幹に、腰掛けていた。

「また、会ったね……」

言って彼女は微笑んだ。
彼女の発した言葉は、とても自然で、まるでそれが当然であるかのようにすら、聞こえた。

「
」

オレは、言葉を失っていた。

「しょうくん？大丈夫？？おい。しょうくんでは？」

「！

な、なんでもねえよ！！」

オレはハツとして、慌てて返事をした。

「ん……わかった！」

しようくんわたしのことユーレーみたいに思ってたんでしょ!!!??」

「んな!」

まさに凶星である。

「だから、

どうせもう会うハズないだろう
とか、思ってたんでしょ!!!」

「ち、ちげーよ!!!」

「そんなこと言ってほんとにそうなんでしょ!?!」

「ちがう!!!」

それこそ本当のことなので、余計ムキになって否定した。

「もう……素直じゃないなあ……」

そう言つと、彼女はひとつ、ため息を吐いた。

「なあ、お前どこから来てんだよ?」

「え？」

「だから、どこから来てんだよ。
こちら辺のヤツじゃないんだろ？」

「うん」

彼女は、意外にもあっさり頷いた。

「わたしはね……」

少しの間を置いて、彼女はゆっくりと口を開いた。

「わたしはね、違う世界から来たんだよ……
遠い遠い時の向こうから、しょうくんに逢うために……やって来たんだよ……？」

そう言って、彼女は微笑んだ。

「」

彼女の言うことが理解できなかった。

その言葉を彩るように、射し込んだ夕日の光が、彼女をより神秘的に見せた。

呆然としていると、突然強い風が吹き、校庭の砂が舞い上がり、視界が悪くなった。

「じゃあねしょうくん。

また会おう?」

彼女の声でした。

風がおさまり、視線を戻すと、そこには彼女は居なかった。

それは、彼女がどこかに消えたように見えて、彼女がついさつき言ったことが、本当なんじゃないかと錯覚させられた。

どこか……そう、例えば遙かな時の彼方へ……。

第2章 〽夢か、現か〽（後書き）

更新に一年以上かかってしまいました。すみません！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2193g/>

遙かな時の彼方から ~桜~ 2

2010年11月11日07時35分発行